

Title	デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論 (三、完)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.9 (1920. 9) ,p.1227(43)- 1257(73)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200901-0043

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

律行爲は之を認むることなし隨つて物權契約と云へる一個の獨立の無因行爲なるものも亦全く之を認むることなしとす蓋し此等を認めたるものと爲すべき法典上の根據は我民法には全然之れ無きのみならず我民法を曲解して強ひて無因行爲なるものを認めたるものと爲さんとするも其の所謂無因行爲なるものは何等其實益を現はすこと能はざるか故なり然れども只我民法は學問上に所謂物權的意思表示なる法律事實を認めたり(第七十六條)是に於てか一個の問題を生ず即ち此物權的意思表示なる法律事實は如何なる法律行爲若しくは法律要件の組成分子を爲すやと云へる問題はれなり以下に於て少しく之を論せん(未完)

デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡論」(三、完)

高橋誠一郎

十四

貨物に對する需要は即ち勞働に對する需要なり。衣裳の華美と雖も、自國製品を使用するの形態を取りつゝある限り、國家に取りて有利なるものなり。是れに由りて機巧を奨勵し、人民に職を與へ、我が金銀財寶を國內に保持するを得るなり。一臣民の零落は之に準じて他のものゝ出世を來し、斯くて又た貨幣は一層移動的と爲り、人民に對して大なる刺戟と満足とを與ふるに至る可し(前掲、*Englands Inter-est and Improvement*, p. 27.)。而も奢侈にして外國品に向はんか、問題は全然別個のものとする。即ち無用の贅澤物より成る外國品の法外なる消費に由りて生じたる貿易は纏がて國內の生産を等閑に附せしめ、輸入をして著しく輸出に超過せしめ、斯くて其の不足を支拂ふが爲めに我が正貨は當然國外に流出して年々歳々我が

貧困の度を増加し行くものと思料せられたり (Thomas Manley, Usury at six per Cent. examined, 1668, The Preface. 参照)。謂ゆる「自由貿易」の主張者は先づ此の富の消費に關する不完全なる學説を論破するの要を見たるなり。

早く既に一千六百七十七年の交に於て、凡ゆる需要の形態は等しく皆な交易に取りて有利なるを主張するの觀ありし者は England's Great Happiness; or, a Dialogue between Content and Complaint wherein is demonstrated that a great part of our Complaints are causeless. And we have more Wealth now, than ever we had at any time before the Restauration of his sacred Majesty. の著者たる a real and hearty Lover of his King and Country. と稱したる覆面の論客なり。彼は傳道之書第七章第十節昔の今に勝るは何故ぞやと汝言ふならば、汝の斯かる問を爲すは是れ智慧より出づるものに非ざるなり」の一句を其の扉に題せり。

對話篇中一方の話者たる Complaint は當時の社會に漲れる重なる愁訴即ち佛國貿易の逆潮に由りて生じたる正貨の輸出、華美に過ぐる人民の生活、外國人の來住過多、共用地の圍繞、交易業者の過大なる増加等を列擧せるに對し(同書、一千八百五

十六年 A Select Collection of Early English Tracts on Commerce. 版 p. 258. 以下の引用は總べて此の版に據る)他方の話者 Content は東印度會社が貨幣を輸出するは英國に取りて大なる利益なるを主張し (p. 259.)、他の外國産のリンネルに比し、キャラコを消費するの利益を説けるも、而も東印度貿易に關する論述は之を Thomas Mun. 及び一千六百七十七年版 The East-India Trade a most profitable trade to the Kingdom. の著者に譲り (pp. 259-260)、諾威より木材を輸入するの利益を擧げ、更らに其對手が Fortey の計算を掲げて佛國貿易に關する意見を問ふに及び、等しく又た之れを廢棄するの非を説き、其の輸入品の或るものは英國に取り必要缺く可らざるものにして、他は或ひは吾人の趣味性を刺戟して更らに之れに加工するが爲めに吾人の間に幾多の重要な職業を増加し、或ひは之れを輸出して多大なる利潤を收めつゝあるを指摘し、而して凡ゆる種類の市場を満足せしむ可き商品の著しく多様なるを以て頗る有利なるものと認めたり (pp. 260-261.)。

著者は宛も一國內に於ける個人間の取引に對すると等しき態度を以て外國民との關係を觀んとせり。曰く「Noke の John は肉屋にして Style の Dick は交易者、汝

自身は法律家なりと假定し、彼れ等は毫も其の必要を有せざるが故に、證書に關して汝と取引せんとせざるが故に、汝は肉類又はリボンを買はず、若しくは汝の妻は精巧なる印度製長上着又は扇子を求めんとせざるか。而も余は若し汝が他の者よりして充分の貨幣を取得せんか、汝は縦令ひ是れ等の物件に對し正金を讓渡するも敢て意とせざる可しと想像せざるを得ず。余は之れを以て同一の場合なりと思惟するなり」と。一般の奢侈的生活(High Living)は工藝の進歩を誘起すること大なるものなり(p. 261)。「吾人は是れまでに見たることなき最良なる輻輳羅紗に由りて九百磅を得るよりも、寧ろレース及びフリリンヂに由りて一千磅を得可きものなり」。「我が必要以上の職業を除去せんか、吾人は盃持及び耕夫以上に有することなかる可く、而して我が倫敦市は幾許ならずして愛蘭の伏屋、恐らくは又たVirgil Travestie に記載せられたるカトセージに等しきに至る可し(p. 262)」。彼れは外國技術の招致、人口の夥多、圍繞及び園藝、交易者の夥多に就きて其利益を述べ(p. 263-270)富の象徴を擧げて、現在の英國は王政復古前の如何なる時代よりも富裕なりと斷じ、Elizabeth 女王朝以後の英國を以てサウル以後の猶太に比し、ソロモン

の叱責を掲げて、刻下の不平を戒め(p. 271-273)。下の諸章句を聖書より引用して對話を終れり。「又た彼れ等の中、或る者怨言きて、滅す者は滅されたり、彼れ等に倣ひて、爾等も怨言くなかれ」(哥林多前書第十章第十節)。「禍なる哉、彼れ等はカインの途に行き、利の爲めにバラムの迷謬に馳せ、又たコラの逆ひし如くして亡びたり」(猶太書第十一節)。「彼れ等は爾曹の愛の筵席の磐なり」(同書第十二節)。「此の輩は怨言く者、足ることを知らざる者、己れの慾に従ひて行き、其の口は誇ることを語り、利の爲めに人に諂ふ者なり」(同第十六節)。「汝等の怨言は我れ等に向ひてするに非ず、エホバに向ひてするなり」(出埃及記第十六章第八節)。「凡てのこと、怨言くことなく又た争辯ふことなくして行ふ可し」(蓬腓立比人書第二章第十四節)。「即ち民、神とモ一ゼに向ひて眩きけるは、汝等何ぞ我れ等をエジプトより導き上りて、曠野に死なしめんとするや、此處には食物も無く、又た水も無し、我れ等は此の粗き食物を心に厭ふなり」と(民數紀略第二十一章第五節)。「是を以てエホバ火の蛇を民の中に遣して民を咬ましめ給ひければ、イスラエルの民の中、死ぬる者多かりき」(同第六節)。

十五

Sir William Petty 亦た其の The Political Anatomy of Ireland, 1691. に於て愛蘭の發達を見ざる所以を論じ、其の天惠薄きが爲めに非ずして、同國人民の所要品少なきが故に、交易の用意なきに坐するものなり、彼れ等は煙草を除きては毫も外國品を欲すとなし、國內商業の存せざる所には勞働に對する刺戟あるとなし、愛蘭土の最大不幸は其の人民の營みつゝある日常生活の單純なるに在り、彼れ等をして更らに多くを消費せしめ、從つて又た更らに多くを贏得せしめんとせば、彼れ等の間に奢侈を生せしむるを可とす、そは臆がて九十五萬の庶民が光彩、機巧及び産業を増加して國家の大富裕を來すに至る可しと主張したること、吾人が既に他の機會に於て説述せる所のものなり(特に同著 chap. xi, p. 75. 以下)三田學會雜誌第十一卷第十號所載拙稿「サー・キリアム・ペチの國富論」(下)参照)。

Nicholas Barbon に至りては曩に擧げたるが如く、貧婪にして消費せざらんとする者を痛撃すると共に、消費に生産的及び不生産的の二者あることを知覺せり。即ち彼れは其の後年の著 A Discourse Concerning Coining the New Money lighter, 1696. に於て論じて曰く、孰れの國家が最も榮ゆるやの問題は孰れが朽廢す可き財貨を最多

額に輸入するやを注目するに由りて決定せらるゝこと能はず、而も孰れが其の人民の勞働及び生産を増減すること最も大なるが如き種類の財貨を最も多く輸入するや、又た孰れの國家が依りて以て其の住民の最大多數が富裕たらしめらる可き底の財貨を最も多く輸入若しくは輸出するやを觀察せざる可らずと(同書 p. 50)。こは決して關稅簿に記されたる財貨の價值又たは「貿易平衡」を記録するが爲めに提唱せられたる如何なる他の計算に由りても察知せらるゝこと能はざるなり (ibid.)。而して我が國民の勞働及び生産を阻止することなき葡萄酒類又たは比較的富裕なる階級の人民のみ使用する凡ゆる他の貨物の輸入は地金の輸入と等しく有利なりと觀たり (p. 51)。

而も猶貿易平衡の信條は自由貿易論者と看做せる可なり Thomas Gordon の The Nature and Weight of the Taxes of the Nation, 1722. Jacob Vanderlint の Money answers all things : An Essay to make Money sufficiently plentiful amongst all Ranks of People; and increase our foreign and domestick Trade, fill the empty house with inhabitants, encourage the Marriage State, lessen the number of Hankers and Pedlars, and in a great measure prevent giving long Credit and making bad debts in trade;

Likewise showing the Absurdity of going to war about trade, and the most likely Method to prevent the clandestine exportation of our Wool, and also to reduce the National Debt and ease Taxes, 1734 及び Sir Mathew Decker 〇 An Essay on the Causes of the Decline of the Foreign Trade, consequently of the Value of the Lands of Brittain, and on the Means to Restore both. (一七三四十四年版) 同五十年増補再版. Adam Smith は何等遲疑する所なく本著の匿名の著者を以て Decker 及び Decker 〇 Wealth of Nations, 1776, vol. ii, pp. 487, 491.) McCulloch 氏 A Select Collection of Scarce and Valuable Tracts on Commerce. の序文中に於て是れを排斥せり (pp. viii-ix). 而して一七四十九年 Dublin に於て印刷せられたる其の第二版は Decker の名を署せり 一七五十二年 Townsend 卿 及び Tucker 氏宛てたる書翰 (Hist. MSS. Com. Report, xi. App. 4.) Malachy Postlethwayt 〇 Great Britain's true System, etc., 1757, pp. 163-175. William Temple 〇 Vindication of Commerce and the Arts, 1758, p. 37. Sir James Caldwell 〇 An Enquiry how far the Restrictions laid upon the Trade of Ireland by British Acts of Parliament are a benefit or a disadvantage to the British Dominions in general and to England in particular, for whose separate Advantage they are intended, in Debates relative to the Affairs of Ireland in the years 1763-1764,

1766, p. 782. 等の典拠は之れを拒否するが如し。Francis Fauquier は其の著者を Richardson なる人と做せり (An Essay on Ways and Means of raising money for the support of the present war without increasing the public debts, 1756, p. 56.) 斯くて彼れの説は幾多の踏襲者を生じたりと雖も、未だ容易に信ず可らざるなり(等)によりて依然保持せられたり。

十六

Hume が貿易論上の任務は先づ一國の強大及び其の臣民の幸福は概して(例外は固より之れを是認せざるを得ざるも)商業に關しては不可分の關係有るものと認め、外國貿易は國內に於ける勞働の蓄積を増加し、君主は其の必要と看做したる部分を公務に轉用するを得るものなりと做し、そは輸入に由りて新たなる製造業に原料を供給し、而して輸出に由りて國內に於て消費せらるゝこと能はざる特殊の貨物に對する勞働を誘起するものにして、大なる輸出入を有する國家は自國産の貨物を以て満足しつゝあるものに比し、一層工業及び精練と奢侈とに使用せらるゝものに富むことを主張するに存したり。爰に「充實」と「幸福」とは「國力」と一致して増加するを得るなり(前掲 Essays, pp. 239, 247, 250. 三田學會雜誌第十三卷第

十一號所載拙稿デヴィッド・ロウムの「經濟論」(一)參照。而して彼れは又た其の Essays, Moral, Political and Literery の第二部第五論に於て貿易平衡に就きて論じたり。

商業の本質に通せざる國民は彼れ等が貴重且つ有用と思惟したる總べての貨物の輸出を禁止し而して之れを自己の間に保留せんとするの常なり。彼れ等は此の禁止に於て其の所期と正反對に行動し、而して或る貨物にして輸出せらるゝこと愈々多ければ、國內に於て生産せらるゝ所愈々多く、彼れ等自身は常に其の最初の提供を受く可きことを考慮せざるなり。貨幣に關しても亦た同一の嫉妬的恐怖は諸國民の間に行はれたり、而して或る人民をして是れ等の禁止は彼れ等に對して逆に爲替を引上げ、尙ほ一層大なる輸出を誘起する以外、何等の目的にも資することなきを信せしむるが爲めには理論と經驗との二者を要するなり。或ひは是れ等の謬見は甚だ明白なりと稱する者あらんも、而も克く商業に熟通せる國民に於てすら貿易の平衡に關する強烈なる嫉妬と其の金銀は悉く彼れ等を離るゝに至る可しとの恐怖とは猶ほ勢力を有しつゝあるなり。こは余に取りては殆んど凡ゆる場合に於て理由なき危懼たるの觀あり、而して貨幣が人民と産業との

存する國家を去ることを恐怖す可しとせば、余は臆がて又た凡ゆる源泉と河流とは涸渴す可きを憂懼せざるを得ざる可し。吾人をして慎重に是れ等後掲の利益を保留せしむ可し、而して吾人は毫も前者を喪失するを憂懼するの要なきなり。貿易の平衡に關する凡ゆる計算は頗る不確定なる事實及び推定に基礎を有するものなるを認むること容易なり。税關の帳簿は充分なる推論の根據として承認せらるゝことなく、爲替歩合も亦た、吾人が總べての國民に對して之れを考察し、又た送附せられたる諸金額の割合を知悉するに非ざれば多く之れに勝ることなし、而も斯くの如きは不可能なりと斷言して過りなかる可し (pp. 295-296.)。

要するに這個不良なる貿易平衡の危懼は或る者が政府を喜ばず、若しくは嚮々として樂まざる場合に必ず生ず可き性質のものたるの觀あり、而してそは決して輸入と平衡する一切の輸出に關する委曲詳細の説明に依りて論破せらるゝと能はざるが故に、爰には彼れ等が吾人にして我が人民と我が産業とを保留する間は斯くの如き結果を生ずるの不可能を明かにす可き一般的論證を形成するを以て適當と做す可し。今、大不列顛内に於ける凡ゆる貨幣の五分の四が一夜に滅絶し

て國民は正金に關しては宛も諸Harty及びEdward王の治世に等しき状態に致されたりと假定せば、其結果は如何。凡ゆる勞働及び貨物の價格は之に準じて低下し、而して一切の物は彼等が是等の時代に於て存したると等しく低廉に賣却せられざるを得るか、然らば如何なる國民が克く一定の外國市場に於て吾人と相争ひ、同一價格(吾人に對しては充分の利潤を與ふ可き)に於て航海し、若しくは製造品を賣却せんとを窺窺し得可き。斯の如くしてそは極めて短少の時間内に吾人の喪失せる貨幣を呼び戻し、而して吾人を凡ゆる隣國民の水準に高めざるを得ず。吾人にして一度び此處に到達せんか吾人は直ちに勞働及び貨物の低廉なる利益を失ひ、而して吾人が飽滿と充實とは其以上の貨幣輸入を停止せしむるなり。又大不列顛内の凡ゆる貨幣が一夜にして五倍に増大せりと假定せば反對の結果を生ぜざるを得ず。總べての勞働及び貨物は如何なる隣國民も吾人よりして購入すること能はざるまでに法外なる昂騰を爲すに反し、他方に於て彼れ等の貨物は比較的に低廉と爲り、制定せられ得る總べての法律を無視して、そは吾人の上に殺到し、我が貨幣は流出す可く、吾人が外國人と等しき水準に下り、斯くの如き不利益の下

に吾人を置ける富の大優越を失ふに至りて初めて止まざるを得ず(pp. 297-298)。
而して斯くの如き法外なる不平等が奇蹟的に生起せる場合に之れを矯正す可き同一の原因は其の自然の常道に於ける發生をも阻止し、而して永久に總べての隣國民間に略々各々其の技術と産業とに比例せる貨幣を保留せしめざるを得ず。凡ゆる水は其の相通する場合には必ず常に同高を維持するなり。(尙ほ是れよりも、其の作用に於て限定せられたるも、其の國が貿易を行ひつゝある凡ゆる特殊の國民に對し不良なる貿易の平衡を防止する他の原因あり。吾人が輸出するよりも以上の財貨を輸入する時は、當然支拂ふ可きものと爲れる貨幣の運搬費及び保険料に相當するだけ、爲替は吾人に對して逆と爲り、而してこは輸出に對する新たなる獎勵たるなり。即ち爲替は決して其の高以上に多く上ること能はざるが故なり)。而も若し或る水の一體が其の周圍の分子と何等の交通を有することなしとせば、前者は後者以上に高めらるゝを得るが如く、貨幣に於ても亦た、何等かの物質的若しくは物理的の障害に由りて交通が遮斷せられたりとせば、即ち凡ゆる法律のみにては無効なるが故に、斯かる場合には頗る大なる貨幣の不平等存するを

得可し。斯くて支那の莫大なる距離は我が印度會社の獨占と相俟つて交通を阻止するが故に、金銀は同王國に見出さるゝよりも遙かに大なる高に於て之れを(殊に後者)歐羅巴に保留するなり。然れども此の大障害にも拘らず、前記原因の効力は猶ほ顯然たるものあり。一般に歐洲の熟練と精巧とは恐らく手技及び製作に關しては支那のそれを凌駕するものあるも、而も吾人は決して大なる不利なくして彼の地に商ふこと能はず。而して吾人が亞米利加より受くる不斷の補充を有するなくんば、應がて歐洲及び支那の兩地に於て殆んど同高を來すに至るまで、前者に於て減少し、後者に於て増加す可し。又た苟くも理性ある者はかの勤勉なる國民にして波蘭若しくはバルバリーの如く吾人に近接せんか、吾人よりして我が正金の過剰を流出せしめ、自己に對して更らに大なる西印度の財寶の配分を吸引す可きを疑ふこと能はざる可し。吾人は這般の作用の必然を説明するが爲めには物理的引力に依るを要せず。人間の利害及び欲情より發生する全然之れと等しく有力確實なる心理的引力の存するを觀るなり (pp. 298-300)。

十七

斯くて今日歐洲全土を旅行する者は、貨物の價格に據りて、貨幣は君主及び國家の無稽なる嫉妬にも拘らず、殆んど平準に歸着し、一王國と他のものとの間に於ける相違は此の點に於ては往々にして同一王國內の相異なる諸州間に存するものよりも大なることなきを見るなる可し。爰に特に注意す可きは、本論を通じ、貨幣の平準と謂へる場合には必ず常に各個の國家に存する貨物、勞働、勤勉及び熟練に對する其の比例的の平準を意味することは是れなり。而して *Here* は是れ等の利益が隣邦に於て存する所のものに對し二倍三倍四倍なる場合には貨幣は又た確實に二倍三倍四倍たる可きを斷言するなり。斯の如き比例の精確を妨害し得可き唯一の事情は一地方より他に對する貨物輸送の費用なり、而して此の費用は往々にして不同たるなり。而も這個の支障は特に取立て、云々す可きものに非ず。即ち貨物の運輸にして費用大なるだけ、それだけ各地間の交通は阻害せられて完全ならざるが故なり (pp. 301, 507-508)。

佛國を嫉視し嫌惡するの情は商業に對して無數の障壁と妨害とを置くに至らしめたり。而も吾人が是れに由つて得たる所のものは何ぞ。吾人は我が毛織物

類に對する佛國市場を喪失し、而して葡萄酒貿易を西班牙及び葡萄牙に移し、高價を以て悪酒を購ふなり。佛國の酒類にして幾分強麥酒及び自國醸造の飲料を悉く排除するまでに低廉且つ豊富に販賣せられたりとせば、英國は全然廢潰す可きを信せざる英國民は極めて尠少なる可し。而も吾人にして偏見を排除せんか、そは益あるも害あること能はざるを立證すること困難に非ざる可し。英國に葡萄酒を供給するが爲めに佛蘭西に於て栽植せられたる葡萄園の一觚を新に増す毎に、佛國民に取りては自己を給養するが爲めに、小麥若しくは大麥を播種せる英國に於ける一觚の産物を取付すること必要と爲るなり、而して是れに由りて英國は更らに良好なる貨物の支配を得可きこと明かなり。佛國王は屢次勅令を發して新たなる葡萄園の植付を禁止し、近く栽植せられたるものは總べて之れを根拔ぎにす可きを命じたり、即ち彼れ等はかの國に於ては、凡ゆる他の産物以上に穀物の價值勝れたるを知覺せるなり (p. 302)。

洵に或る國內に於て克く其の自然の水準以下に貨幣を引下げ、又は其の以下に之れを引上げ得可き方策は各一あるのみなり、而も是れ等の場合は、之れを考査する時は、彼れが一般の理論に歸着し、更らに之れに對して權威を附加するに至るを知る可きなり。前者は即ち銀行、公債及び證券信用の如き制度なり、三田學會雜誌第十四卷第三號所載拙稿「デヴィッド・ヒュームの貨幣論」參照。是れ等のものは證券をして貨幣と同價たらしめ、之れをして普く全國に流通せしめ、之れをして金の地位を補充せしめ、之れに準じて勞働及び貨物の價格を引上げ、而して是れに由りて是れ等貴金屬の大部分を驅逐するか、若しくは其の以上の増加を抑制するなり。凡そ貿易平衡論よりも近眼的なる推論存すること能はず。吾人は一個人の所有せる貨幣の高にして二倍とならば、彼れは遙かに富裕の程度を進む可きが故に、凡ゆる人の貨幣が増加せば、之れと同じく良好なる結果を來す可きを想像し、そは之れに準じて一切の物價を引上げ、早晚各人をして従前と同一の状態に歸せしむることを考慮せざるなり。貨幣の存在高大なるの利益は惟り吾人が外人に對する公の折衝及び處理に際してのみにして、我が證券は彼の地に於ては全然顧らるゝことなきが故に、吾人は是れに由りて、何等の利益を收得することなくして貨幣の大豊富より生ずる總べての悪結果を感知するなり。吾人は前掲の「貨幣

論中に於て貨幣は其の増加しつゝあるの時、其の増加と物價の騰貴との間隙に於て産業に對して獎勵を與ふるを觀たり。同一性質の良結果は亦た證券信用に依りて生ぜしむるを得可し、而も公事に烈しき激動ある毎に生ぜざるを得ざるが如き同信用の減損に由りて一切を失ふの危険を冒してことを急ぐは危し (pp. 303-304)。

貨幣として國內に流通せる證券の高一千二百萬にして即ち吾人は英國の巨大なる債務證書の全部が斯くの如き形態に於て使用せらる可しと想像せざるが故に、同國の眞正の現金は一千八百萬なりと假定せば、其の國は三千萬の現在高を保持するを得るを知る可し。若し同國にして之れを保持し得可しとせば、吾人は此の證券の新發明に由りて金銀の流入を阻止せざりしならんには、必然是れ等の金屬を以て之れを取得し居らざるを得ざりしなり。同國は世界の凡ゆる國家よりして此の高を取得せるなる可し。何となれば、若し此の一千二百萬を除去せんか、此の國に於ける貨幣は我が隣邦に比して其の平準以下と爲り、而して吾人は宛も充満飽和の状態に達し、其の以上を保持し得ざるに至るまで、即時彼れ等の總べて

より之を吸引せざるを得ざるが故なり。洵に證券信用及び銀行は一國より正金及び地金を驅逐すると疑ひもなき事實なりと雖も、而もそは正金及び地金は紙幣の健全なる使用に由りて鼓舞せしめらる可き産業及び信用の増進よりして補償及び過剰をすら期待するを許さざる迄に大なる結果を有するものに非ざるなり。(pp. 304-305. Hume が茲に Edinburgh の諸銀行によりて試みられたる當座貸 (Bank-credit) 及び Glasgow の商社が聯合して組成せる各銀行の發行せる小額手形に就きて述べたる兩項—pp. 305-308.—は一千七百五十二年版 Political Discourses 一千七百五十三—十四年同五十八年、及び同六十年版 Essays and Treatises on Several Subjects. には存することなし)。

次に水準以上に貨幣を引上ぐ可き唯一の方策は巨額の金銀を集積して公の財寶と爲し、之れを閉鎖して絶對に其の流通を防塞するに存し、吾人が破壊的のものとして非議せざるを得ざる所のものなり。水は周圍の分子と交通せざるが故に、斯くの如き施設に依りて欲するが儘の高さに引上げらるゝを得可し。之れを立證するが爲めには吾人は單に曩きに掲げたる我が現金の一半又は其の一部

分を減じたる場合の推定に復歸するを以て足る可し、即ち其の直接の結果は凡ゆる隣邦より同一額を吸引することと爲る可し。加之ならず、此の場合には萬有の本性に依りて斯くの如き蓄藏に對して置かる可き一定必然の限界存せざるの觀あり。 Geneva の如き一小都市も長く此の政策を維持するに由りて歐洲に於ける貨幣の十分の九を獨占するを得たりしなる可し。洵に人間の本性には斯くの如き巨大なる財富の増大に對し、打勝ち難き障害あるが如し。巨大なる財寶を有する微弱なる國家は直ちに是れに比して貧乏なるも而も有力なる其の隣邦の餌食たる可し。強大なる國家は其の富を危険にして淺慮なる計畫に蕩盡し、而して恐らくは是れに由りて是れよりも遙かに貴重なるもの、即ち其の人民の勤勉品行及び員數を破毀するに至る可し。此の場合に於ては餘りに高く引上げられたる水は其の容器を破裂せしめ、而して自己を周圍の分子と混交せしめて、直ちに其の必然の平準に下降するなり (pp. 308)。

十八

是れ等の原理よりして吾人は歐洲各國殊に英國が貿易の上に課せる無數の障

壁、妨害及び關稅に就きて如何なる判斷を構成す可きかを知るを得可し、是れ等のものは其の流通しつゝある間は決して其の平準を越へて堆積することなかる可き貨幣を蓄積せんとする法外なる欲望より、若しくは決して平準以下に下降することなかる可き其の正金を喪失す可しとの無據の恐怖より生じたるものなり。若し我が富を離散せしむ可き物あり得可しとせば、そは當さに斯くの如き拙策なる可し。而かも此の世の創造者が隣接諸國民に各々相異なる地味、氣候及び資性を與ふに由りて企圖したる、かの自由の交通及び交易を彼れ等より奪ふの一般的惡結果を生ず可し。我が近代的政策は貨幣を驅除するの唯一方法たる證券信用の使用を容れし、之れを累積する唯一の方法たる貯藏策を排斥し、而して彼れ等は産業を阻害するの外、何等の目的にも資することなく、吾人自身と其の隣邦とより人爲と自然の共通なる利益を剝奪する凡百の畫策を採用するなり (pp. 311-312)。

然れども Hume は是に至りて彼れが常例の戒心を以て自己を衛護せり、而して彼れが國民的産業保護の問題に關しては完全なる自由貿易の見地に立てる者に非ざるを示したり。曰く、外國貨物に對する凡ゆる租稅は獨り前記の嫉妬に基け

るものを除きては悉く之れを有害若しくは無用と看做す可きに非ず。獨逸のリンネルに對する課税は自國工業を奨励し而して是れに由りて我が人民と産業とを増加するなり。ブランデーに對する課税はラム酒の賣行を増加し、我が南部植民地を擁護するなりと。國家を支持するが爲めには必然税金を賦課せざるを得ざるが故に、港津に於て容易に遮斷して課税に服せしめ得可き外國貨物に對して之れを課するは更らに便利なりと思惟せらるゝを得可し。然れども吾人は常に、關稅の算術に於ては二二ンが四と爲ることなく、往々にして僅かに一と爲るものなりと言へるSmith博士の格言を記憶す可きものなり。若し葡萄酒に對する關稅が三分の一に低減せられんか、彼れ等は現時よりも國家に對して遙かに以上を與ふ可きこと殆んど疑ふ可らざるなり。是れに由りて自國民は一般により、良好にしてより、健康に適せる飲料を飲用し得可く、而して吾人がさばかり嫉視せる貿易の平衡に對して何等の損害をも生ずることなかる可し。農業以上に出でたる強麥酒の製造は謂ふに足らざるものにして、極めて少數者に職業を與ふるに過ぎず。葡萄酒及び穀物の運搬は之れに比して著しく劣ることなかる可し(P. 312)。即ち

Humeは僅かに當時の保護政策に敬意を表したるのみにして急速に自由主義の論據に復歸せるなり。

然も嘗つて富裕殷盛なりし國家にして其の交易、産業及び人民を失はんか、彼れ等は其の金銀を保留せんことを期待する能はず、即ち是れ等貴金屬は之れと均衡を保つ可きが故なり。Lisbon 及び Amsterdam が Venice 及び Genoa より東印度貿易を取得せる時、彼れ等は又た是れより生ず可き利潤と貨幣とを取得せるなり。政府の位置の移されたる場合、多費なる軍隊が遠隔の地に於て維持せらるゝ場合又は巨額の債權が外國人によりて所有せらるゝ場合には自ら是れ等の原因に由りて正金の減少を來すなり。而も是れ等は貨幣を拉し去る激烈にして、強制的なる方法にして、臆がて人民及び産業の輸送によりて伴はるゝを常とす。然れども是れ等のものにして殘留し、而して流出にして繼續せざる場合には、貨幣は常に吾人が全然想ひ及ばざる凡百の水路に依りて再び歸來するなり。要言すれば、政府は、其の人民及び其の製造業を保留するを注意す可き大なる理由を有す。而も其の貨幣に至りては恐怖なく嫉妬なく安んじて人事の經過に委するを得可し。然らず

して若し此の後の事情に對して注意を與ふる場合には、それは獨り前者に影響する範圍内に限らる可きものなり(P. 313-314)。

十九

Humeは更に同書 Essay vi に於て Of the Jealousy of Trade. なる短篇を掲げたり(本論及び Essay xiv. Of the Coalition of Parties. は一千七百五十八年に至りて初めて挿入せられたるものなり。T. H. Grose の History of the Editions. は記して曰く、同書が既に印刷及び頁附を終りたる後、二篇の新論文は延着の爲め内容目次中に挿入せられずして之れと合綴せられたり)。Essays Moral, Political, and Literary, ed by Green and Grose, 1875, p. 72.)。即ち曩きに商業國民の間に一般なる理由なき嫉妬の一種を排除するに努めたる彼れは今や等しく無據なる他の嫉妬を擧示するの必要を感じたるなり。猜疑の眼を以て其の隣邦の發達を觀、凡ゆる通商國を以て其の敵手と思料し、而して彼れ等は孰れも其の損害に由るの外、繁榮に赴くこと能はざるものなりと想像すること是れなり。而して Hume は此の偏狹毒惡なる意見に對して、總べて一國に於ける富及び商業の増加は凡ゆる其の隣邦の富と商業とを害する

ことなく、却つて彼れ等が國內の産業は他國の技術發明及び改良を採用するに依りて發達を來し、始め國外より輸入せられて貨幣流出の怨嗟大なりし貨物は、漸次之れを生産するの技術其の者も亦た輸入せられて明かに自國の利益と爲り、國內に於ける産業の増加は外國貿易の基礎を置き、多數の貨物が國內市場の爲めに生産精製せらるゝ場合には常に有利に輸出せらる可きものを見出すに至る可く、斯くて其の富と商業とを増進すること普通なるも、而も凡ゆる周圍の邦國にして無知、怠惰及び野蠻の裡に埋れつゝある場合には、彼れ等は其の貨物と交換す可き何物をも有せざるが故に、之れを取得すること能はず、従つて其の交易及び生産の發達は頗る局限せられざるを得ざる所以を論證せるなり(P. 314-315)。

彼れ曰く、此の點に於ては國家は個人と同一状態に在るなり。單一なる人は其同市民の全部が怠惰なる場合には殆んど勤勉なること能はざるなり。一社會を組成する各員の富は余が如何なる職業に従事することを問はず、余の富を増加するに資するなり。彼れ等は余が勤勉の所産を消費し、而して之れに代へて其の勤勉の所産を余に與ふるなり。又た、如何なる國家と雖も、其の隣邦が彼れ等に對して

需要を有せざるが如き程度まで總べての技術及び工業に於て發達するに至る可しとの危懼を懐くの要なし。自然は各個の國民に種々なる資性、氣候及び地味を與ふるに依りて、彼れ等が皆な依然勤勉にして文明なる間は其の相互の交際及び通商を確保せるなり。加之ならず、或る國に於ける技術にして増加すること愈々大なれば、其の勤勉なる隣邦民よりする其の需要は愈々大なる可し。住民は殷富にして精練と爲るが故に、凡ゆる貨物を最大なる完成に於て取得せんことを欲し、而して彼れ等は交易す可き貨物を充分に有するが故に、諸外國より多額の輸入を爲すなり。し、彼れ等が輸入を行ふ諸國の産業は獎勵を受け、彼れ等自身のも亦た彼れ等が之れに代へて交付する貨物の販賣に由りて増加するなり (pp. 315-316)。

然れども一國が英國に於ける毛織物の如く一定の重要貨物を有せりとせば、我が隣邦民の該工業に干渉するは吾人に取りて損害たらざるを得ざるか。答へて曰く、或る貨物が一國の重要物産と稱せらるゝ場合には、其の國家は之れを生産する上に或る特有にして自然なる利益を有するものと推定せらるゝなり、而して若し斯くの如き利益あるにも拘らず、彼れ等が之れを喪ふとせば、彼れ等は其の隣邦

の勤勉よりも寧ろ自己の怠惰若しくは惡政を非難す可きなり。又た隣國民の間に於ける産業の増加に依りて凡ゆる特種貨物の消費亦た増加し、而して外國製品が市場に於て之れに干渉するも、彼れ等の所産に對する需要は依然持續し若しくは増加することすらあり得可し。而して之れにして減少す可しとするも、若し生産の氣風にして保持せられんか、そは容易に一部の工業より他に轉向せしめらるゝを得可し。吾人は凡ゆる生産の目的物が悉く空蕩し、若しくは自國の製造業者が依然隣邦のそれと同等なるの際に彼れ等が失職の危險に遭遇す可きを憂ふるの要なし。相拮抗せる國民の間に於ける競争は寧ろ遍く彼れ等の間に生産を存續せしむるに資す可く、而して如何なる人民と雖も唯だ一種の大工業を享有して全部之れに衣食するよりも其の多種を有するものは幸福なり。彼れ等の地位は不安の程度少なく、彼れ等は凡ゆる特種の商業が常に蒙るの虞ある變革と不定とに對してさまで敏感ならざるなり (pp. 316-317)。

其の隣邦の進歩と勤勉とを恐怖す可き唯一の商業國は土地狹少にして國産を有することなく、單に他の仲買人、代理商及び運搬人たるに由りて繁榮なる和蘭の

如きものなり。斯くの如き人民は自然隣邦が其の利益を知りて之れを追求し、自己の手中に於て其の事務を處理し、其の仲買人が收得し來りたる利益を剝奪するに至る可きを憂ふることある可し。然れども斯くの如き結果を見るまでには長き時を要するものにして、それは完全に回避せらるゝを得ずとするも、熟練と勤勉とに依りて幾世代の間、防護せらるゝを得可し。優れたる資本と取引關係の利益は頗る大にして之れを壓倒すると容易にあらず、而して一切の取引は隣邦に於ける生産の増加と共に増加するが故に、其の通商が斯くの如き不安定なる基礎の上に立てる人民と雖も、當初に在りては其の隣邦の繁盛なる状態より莫大なる利益を收得するを得可し (pp. 317-318)。

我が偏狹毒惡なる政策にして、成功を見るに至らんか、吾人は凡ゆる我が隣接の國民をしてモロッコ及びバルバリーの海邊に存するに等しき懶惰無知の状態に至らしめざるを得ず、而も其の結果は如何。彼れ等は吾人に對して何等の貨物を送ること能はず、彼れ等は吾人よりして何物をも購ふこと能はず。我が國內商業其の者も競争模範及び教訓の缺乏に由りて凋落す可く、而して吾人自身も亦た直ちに彼れ等と同一の鄙賤なる状態に陥らざるを得ざるなり。斯くて Hume は最後の斷案を下して曰く、嘗だに一個の人間としてのみならず、一個の英國臣民として、余は獨逸、西班牙、伊太利及び佛蘭西其の者の繁盛なる商業をさへ切願するなり。少くとも大英國及び凡ゆる國々の主權者及び閣臣にして相互に對して斯くの如き濶大仁慈なる情操を抱きしならんには、彼れ等は更らに繁盛なる可しと (p. 318)。

二十

斯くて吾人は猶ほ Hume に於て屢々 refined mercantilism の痕跡を發見し得ざるに非ず、其の觀察は多く政治的見地より下されたるも、而も、内國産業對外國貿易の問題は合理的に解決せられたるを見るなり。彼れの論文集出版の後十有五年にして現れたる Sir James Stewart の大著 *An Inquiry into the Principles of Political Economy*, 1767. は猶ほ明確にマーカントリストの思想圈内に在るものにして、産業及び商業を指導して正しき水路に着かしむるの爲政治家に取りて賢明なるを主張せりと雖も、總がて *Adam Smith* の *Wealth of Nations*. に至り、政治的基礎を離れて、純乎たる經濟的見地より立論し、國力と直接交渉なくして國富を取扱ひ、自由無障なる私富の追求は

克く國富の増加を來す可きを主張せるなり。而して Whig 黨は Tory 黨の傳統的政
策に復歸する時機に際會せり。Smith の學説は William Pitt に於て偉大なる改宗者
を見出せり。一千七百八十六年 Eden 條約(英國を代表せる Robert 卿の名に據る)に由
り始めて佛國と自由貿易的條約を調印せるものは彼れなりき。夙に自ら稱して
Smith の學徒と呼べる Pitt は一千七百八十七年 Smith の倫敦に來るや、一再ならず
之れと會見して財政上の事項を諮問せり。傳へ言ふ Smith は曾つて會談果て、
後叫びて曰く「非凡なるかな、Pitt! 彼は余自身よりも克く余が意想を解す」と。英
國は今や成熟の狀態に達せり。國家の權威を以てする産業の指揮管理は畢竟過
渡のものたるに過ぎず。權威の干涉愈々有效に行はるゝに及びて、各個人の能力
は益々發達し、而して各個人の能力益々發達するに従ひて、彼れ等は愈々全般の拘
束より解除せられんことを要求するに至るは自然の數なり。而も敢て問ふ、斯く
の如き發達に對して貢獻する所大なりしものは内國工業に對して無關心なりし
Tory なりしか、抑も亦た其の保護に銳意なりし Whig なりしか。(一九二〇年八月)

(追記一) 吾人が本篇第七節に於て引用したる無名氏の著 The Advantages of the East-India

Trade to England, considered. は初め千七百〇一年を以て出版せられたるものにして、Consider-
ations on the East-India Trade. と題せり(其の以下の文字は相違なし)。一千八百五十六年
McCulloch の Early English Tracts on Commerce 中に翻刻せるもの即ち是なり。

(同二) 吾人は曾つて「ヤーカンナリズム」概論中に於て Essay on the Causes of Decline of the
Foreign Trade, 1744. の著者を以て Richardson と記し(三田學會雜誌第十三卷第十號所載)、其の
後「デヴィッド・ヒュームの貨幣論」に於て同一書を Matthew Decker の著として掲げたり。
些か讀者をなして惑はしむるの虞なきに非ざるが故に、本篇第十五節中に於て特に
此の書の著者に就きて細説せり。